

令和4年度第3回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和5年3月17日（金）午後2時00分～午後3時20分

開催場所：福知山市立図書館中央館 研修室

出席委員：神谷委員、仲野委員、加賀山委員、足立委員、善積委員、塩見育委員、中井委員、
西村委員、塩見建委員

欠席委員：由良委員、河西委員、芦田委員

事務局：山路館長、四方次長、塩谷係長、塩見係長

傍聴者：なし

議題：（1）令和4年度図書館事業報告について

（2）図書館読書ボランティアについて

<委員長あいさつ>

<前回議事録の承認>

協議事項

1 令和4年度図書館事業報告について

～資料「図書館事業報告（令和4年4月～令和5年3月）」等に基づき、事務局から説明～
内容：令和4年度の図書館の事業について

事務局：資料については、第2回の図書館協議会において令和4年11月までの報告をさせていただいたものに、追記をさせていただいた資料になります。

新型コロナウイルス感染症にかかる図書館の対応状況については、特に変化はありませんが、マスクの着用義務がなくなったことを受け、お客様については各自の判断ということで、市としては対応させていただいており、窓口については、まだ、パーテーションを置いて、職員についてはマスク着用で対応をさせていただいております。

移動図書館については、令和5年1月から自治会及び福祉施設が各1箇所増となり、42拠点を周っている状況です。

乳幼児向け事業としまして、「えほんのへや」については12月、1月、2月、3月と順調に開催させていただいております。「ブックスタート」「おはなしのひろば」「ブックスタートボランティアによる読み聞かせ体験」についても中止することなく実施ができており、三和分館、夜久野分館、大江分館のおはなし会についても同様です。冬のおはなし会スペシャルとして、1月21日に中央館で「みかんの本文庫」さんにお世話にな

り実施をしています。

小学生向け事業については、前回からの追加は、12月6日の成仁幼稚園の社会見学のみです。

館内展示については、12月、1月、2月とテーマ展示、特別展示を実施しており、関係団体展示についても中丹西保健所、市役所の各課、京都府の関係団体と連携し啓発展示等を実施しております。

バリアフリーサービスについては、令和4年度3月現在で24件の申し込みがあり、「暮らしに読書を、おうえん」セットについては、令和4年度2月までの実績で、追加登録団体が6団体あり、全体で49団体の登録をいただいております。令和4年度は、111セットの貸出実績となっております。雑誌スポンサー制度については、2月末現在で35者、83誌の提供をいただいております。

その他イベント、講演会等としては、中央館では「福知山高等技術専門校」からのインターンシップの受け入れが1名、講師等派遣として、シニア向け出前講座に1月、2月に1件ずつ、放課後児童クラブ指導者研修会に11月と2月、出張おはなし会も1月、2月に1件ずつあり、また、三段池公園に「りとるハピネス」という子ども向け施設が新しくできており、出張おはなし会の形態で12月から毎月1回行かせていただいております。また、本市の職員等の派遣として、中丹地区PTA指導者研修会と乙訓教育局の読書活動推進会議に講師派遣をしております。

あと、チラシを配布させていただいておりますが、電子図書館が、同じシステムを導入しています全国279図書館のなかで、令和3年10月1日から令和4年9月30日までの期間の人口千人あたりの貸出数と閲覧数の両方が全国1位になったということで、大きな実績をあげることができました。そのような中、この1月20日で「ふくちやま電子図書館」が、おかげさまで1周年を迎えることができ、1周年キャンペーンとして、「ふくちやま電子図書館体験会」や「期間限定お試しIDの発行」の実施をさせていただきました。

3月には図書館館内見学会とバリアフリー上映会も実施させていただいております。

図書等の寄贈としては、国際ソロプチミスト福知山様から認証50周年記念としてトートバックを500枚寄贈いただき、中央館、各分館の来館者と移動図書館の利用者に配布をさせていただき大変好評でした。

その他には、1月11日にDigi田甲子園の京都代表に選ばれた子育て支援拠点「りとるハピネス」や「児童科学館」に配置をしました電子書籍用タブレットやOPACの取組を、岡田内閣府特命担当大臣が視察に来福されました。

除籍本の施設提供を市関係機関を対象に実施し1,420冊の準備に対して548冊を提供し、続いて市民の方に対しリサイクル市を実施し、4,965冊の準備冊数に対して3日間で2,530冊提供することができました。

その他のイベント等としては、三和分館で12月に「としょかんまつり」として、「みかんの本文庫」さんのおはなし会を実施し、1月には「新春福引企画」、2月からは「本

の処方箋、よく効くよみ薬あります」と題した事業を実施しております。

夜久野分館においては、1月に新年特別企画「本の福袋」を、2月にはお亡くなりになった松本零士さんの追悼展示をさせていただきました。

2月13日から2月17日には、臨時休館をさせていただき中央館の蔵書点検を実施し、2月22日から2月23日には各分館の蔵書点検を実施しております。

また、6月24日、12月9日と本日3月17日に図書館協議会を開催させていただいております。事業報告については以上です。

委員：今の事業報告に対してなにかご意見、ご質問はありますか。

委員：イベント等で大江分館が少し気になるのですが、何か記載すべきことはなかったのですか。

事務局：おはなし会は他館と同様とさせていただいているのですが、館内が狭いということもあり、なかなかイベントを実施することが難しい環境であり、現在のところは実施できていない状況です。

委員：大江分館に行ってお聞きすると、子どもたちは大江学園の方で読書に親しんでいるようですが、93㎡のわずかな空間ではありますが、何か企画ができないと、三和、夜久野がこれだけたくさんイベントをやっておられるので、大江も何かされた方がいいと思います。

委員：雑誌のスポンサー制度で、35者83誌となっていますが、何誌の内ですか。スポンサーがついていない雑誌は何誌ありますか。

事務局：申し訳ありませんが、手元にデータを用意できておりません。年報には、雑誌の購入種類及び雑誌スポンサーの有無を掲載しているのですが、集計を記載していませんもので。

委員：わかりました。スポンサーがついていない雑誌もあるのですね。

事務局：あります。

委員：まだ、これからスポンサー数が伸びる余地があるのかを知りたかったもので。蔵書点検ですが、不明本はどれぐらいの冊数が出ているのでしょうか。

事務局：本年度実施しました蔵書点検では、中央館については、点検の対象が108,751点に対して不明は31点、同様に三和分館では19,192点に対し1点、夜久野分館は42,815に対し3点、大江分館は12,621点に対し3点となっております。

委員：それですと、そんなに大きな問題ではないということでしょうか。

事務局：そうですね。1冊でも不明があればどうなのだという声もあるとは思いますが、昨年度に比べると中央館においては、半減近くになっております。

事務局：雑誌の数ですが、中央館だけでいうと190冊となりますので、おおよそ半分ぐらいがスポンサーになっていただいている状況です。

委員：伸ばせる余地はあるということですね。

委員：講師等の派遣ということで記載があり、ずいぶんと色々な所に派遣されており、それぞれの所で有意義な講座があるなど見させていただいているのですが、学校関係が全くないのでですね。やはり、学校と図書館というのは、密接な関係の中で子どもたちの読書活動を

推進して頂きたいという気持ちがあるのですが、コロナ禍なのでなかなか先生たちの研修が思うようにできないという現状はあったかと思いますが、私が現役でいる時には、1年に一度は図書館から講師に来ていただき、研修を深めたりしていたのですが、今も私、学校現場にいますが、読書離れがひどいです。タブレットで導入していただいた電子図書も読んでいるのですが、やはり本を開いて静かな時間を過ごすというのが極端に減っています。何校か周っているのですが、昔であれば帯の時間といって、朝読書の時間、昼読書の時間が必ず学校で位置付けていたのですが、削られており、この現状をどうすればいいのかと私もすごく思い悩んでいるのですが。学校現場がもっと読書活動に力を入れていくべきところではないかと思ったり、また、こんな話も聞いたのですが、読書ボランティアの人数が減っている学校がありました。コロナ禍で辞退されたり、色々な苦しい現状がありますので、もっともっと連携を深めていただきたいなと思います。図書館教育研究部というのがありますので、そこも連携を深めていただき、もっともっと先生たちが研修を深める機会があればと思います。

委員：コロナ禍の影響というのは、実際の数字ではなく肌感覚でいいのでどの程度元の状況に回復したという感じでしょうか。イベントなどもずいぶん縮小されていると聞かせていただいておりますし状況はどうでしょうか。

事務局：イベントは徐々に緩和していっている状況です。コロナ前は予約制ではなかった読み聞かせなども、コロナ禍で人数制限のために予約制に変更し実施をしており、現状では制限を5組から最大8組まで緩和をしてきている状況にはありますし、少しずつ増えてきているようには感じています。

委員：数字のことなのですが、バリアフリーサービスのところの宅配サービスについてなのですが、令和2年度4件、令和3年度2件であったものが、令和4年度には24件になっているのですが、この大幅な増はなにか理由があるのかと、今後もこれは増加していくのかを聞きたいのですが。

事務局：基本的には、障害をお持ちの方で図書館に来館することが困難な方に対して自宅まで本を届けるサービスです。増加の理由については、固定の利用者さんがよく利用していただくようになったことが大きな要因です。また、郵便でお届けする方法と自宅まで持っていく方法とがあり、内訳として郵便が20件となっております。

図書館としてもバリアフリー資料の購入の費用を毎年予算要求しており、今後も充実を図っていきたいと考えています。

委員：その資料は、点字本とかですか。

事務局：そうです。点字本であるとか、一番人気があるのは大活字本です。

2 「図書館読書ボランティア」について

～資料「図書館読書ボランティア募集中」のチラシ等に基づき、事務局から説明～

内容：図書館読書ボランティア制度の取扱いについて

事務局：現状、出張おはなし会などの依頼が増加してきている状況です。図書館のおはなし会についてはボランティアの皆さんにご協力いただき実施しているところですが、リトルハピネスや地域での出張おはなし会の依頼の増加で、出張おはなし会についても職員だけではなかなかご要望にお応えできないことが出てきており、図書館読書ボランティアの制度を見直し、次年度から登録制にさせていただき、登録いただいたボランティアの皆さんに出張おはなし会等もお世話になれないかと現在見直しを進めています。ご協力していただけるボランティアさんについては、活動支援として出張に対する図書カードの交付やボランティア保険の加入、図書館ボランティアに係わる活動についてはこの研修室を利用させていただけるようにする等させていただき、ご協力をしていただきながら読書活動の推進を図っていきたくと考えております。

委員：この読書ボランティアの登録の件については中に入り、おはなし会もさせていただいているのですが、先ほど朝読書のボランティアが減っているという話がありましたが、福知山市全体で朝読書が始まる前に、副委員長さんが当時、図書館で講座を開いてくださり、その講座を受けた方が、朝読書のボランティアをするという形で広まっていったのだと思うのですが、図書館の職員がなかなかいけないから、ボランティアの皆さんに出張おはなし会もということだと思うのですが、おはなし会は急に言うてできるものではないのですね。今回、もしこれを実施されるのであれば、やはり講座を実施されて、基本のおはなし会のやり方を教えていただける場が必要ではないかと思えます。

図書館からの依頼で来ましたと言って現地に行かれても基本がないとなかなかできるものではないし、勉強が必要だと思います。そうでないと行かれる方も不安だと思いますし、とても重要なことだと思います。

事務局：ありがとうございます。検討をさせていただきます。このチラシを図書館に置いてると私もやってみたくと言われる方もおられますので、そういう新規の方の受け入れについて検討が必要だと考えておりました。

委員：私は参加できなかったのですが、先日ボランティア会議というものがあったのですが、その中で、図書館として今後おはなし会などをだんだん減らしていかれる方向だという話があったと聞いたのですが、それは本当なのでしょうか。

事務局：おはなし会の回数については、来年度は半分程度減少させ、その分出張おはなし会や春・夏のスペシャルの充実させていけるような形で考えております。ただし、回数は減りますが、定員は増やして実施する予定です。

委員：最初この図書館ができて、おはなし会も何もないところから、どんどんいろんな年齢層のおはなし会ができていくのを、図書館すごくがんばっておられるなど見させており、この図書館の一つの売りみたいなものだと感じていたのですが、なぜ急にそんなことになるのか私はすごく疑問を感じました。どういう図書館を作っていられるつもりだったのか、やはり図書館に足しげく通ってもらう回数を増やしてもらうためにも、いろんな年齢層に広げていかれたのだと思うのですが、なぜ今のタイミングでこの部分を減らされるのか、人員削減とかいろんな事情もあるかもしれませんが、今まで大切にされていた部分だと思うのですが。

おはなし会は、図書館の職員にとっても現場を知り、今の子供たちの様子を知ることにより学んでいかれる大切な機会でもあると思うのですが。

委員：私も図書館で話を聞かせていただいて参加を前向きに考えているのですが、趣旨というのが少しあいまいな感じがします。補充するためのボランティアなのか、新しい企画を考えてこんなボランティアさんに活躍してほしいということで、ボランティア育成したいのか。そして図書館と一体となってみんなで盛り上げていこうというのか趣旨が見えないのです。

募集をされて、参加される方は全員 OK なのか、なんらかの線引きをされるのか、そこらへんをもう少し詳しく教えてください。

事務局：ボランティアに申し込んでいただく際、どのようなことが可能かをお聞かせいただき、どのような形のボランティアさんがおられるのかも把握し、登録させていただくことにより、連携を密にさせていただき、色々なボランティアさんの意見もいただきながら、より良いものを作っていくために勉強をさせていただきたいと考えております。また、なんらかの線引きや募集期間の設定などは考えておりません。

事務局：今回このような話が出てきた背景には、実際のところ職員体制の問題があります。来年度から会計年度任用職員の制度改正により、現在の職員の勤務時間が減少することになります。それに加え退職や分館への異動などの要因により、体制が整わない事情もあります。それを補う職員の補充もありますが、新たな採用者が育っていくには期間が必要であり、現行通りでスタートを切るのは困難であるとの判断があります。また、ここ数年で「暮らしに読書を、貸出セット」「電子図書館」「シニア向け出張おはなし会」であるなど事業を増加させてきて、1人、1人の業務量が増加の一途をたどっていたなかで、職員の総勤務時間の減少があることに対応するためということであり、新たに採用する職員が育ってくれば、必要に応じ一定事業を回復していければと事務局としては考えています。

委員：それでは、委員がおっしゃるように図書館職員の方、ボランティアの方を含めた研修制度を見直していただき、できるだけ少ない人数でもより良く事業が実施していけるよう検討願います。

<閉会挨拶>